

全体会 13時～14時40分

(対面CI講義室 一方向配信はA114講義室・附属小学校で視聴可能)

附属学校園の課題と試み テーマ：共生・ダイバーシティ社会を目指す学校教育

—「自分も大切に、あなたも大切に」を実現する教育実践—

多様性を尊重することはますます重要なテーマとなっています。園や学校という場自体が、子どもたち一人一人の異なる背景や価値観を理解し受け入れ、共生・ダイバーシティ社会となることが大切であると考えています。そのことが、これからの共生・ダイバーシティ社会の担い手として子どもたちが育っていくことにも繋がるのではないのでしょうか。

今回の附属学校園の発表は、6ヶ年計画で進めている「共生・ダイバーシティ社会の担い手づくり」に関する教育モデル開発の中間報告をいたします。また、大学教員や附属学校教員との交流を通して、これからの教育について共に語り合い、考え合う場にしたいと思います（当日は、対面参加の方もオンライン掲示板アプリ Padlet でご質問やご意見をいただくことができますので、携帯電話をご準備ください）。

司会者 附属中学校 吉田 真梨 教諭

報告者 附属学校園教員

助言者 教育学部 北田 佳子 教授

分科会のご案内 15時～17時

＊オンライン参加者のための Zoom 接続先情報は、グーグルフォームで申し込みをいただいた方が登録いただいたメールアドレス宛に、前日までに送信されます。届かない場合、登録情報が不十分な場合が多いので、フォーラム実施委員会 (eduforumsaitama@gmail.com) までお知らせください。Plant で申し込みをいただいた方には、Plant の申込者用のページでお知らせをしていますので、確認をお願いします。

▽教育 教育の多様化から学校を考える (対面のみ A113プロジェクト室)

現在、中央教育審議会の中間答申案では、教育の多様化にあわせたカリキュラム・学校が提言されています。そこで教職大学院生とともに定時制高校・包括的な性教育の実践校などを事例に、多様なニーズを包摂するような学校や学びの空間のあり方について議論していきたいと考えています。本分科会では各事例の報告を行い、参加者との対話を通じて、議論を深めていくとともに、それぞれの学校現場や子どもたちの実態を通じて、悩みや問題を共有し、何かの示唆を得ることができればと考えています。

▽乳幼児教育・保育 ちがいが響き合い、つながり合う保育 (対面 A427講義室・双方向配信)

多様化する社会の流れを受けて、幼児教育・保育の場においても、子ども一人ひとりのバックグラウンドを大切にしたインクルーシブ保育に取り組む園は増えてきています。障害の有無や発達、国籍や家庭環境などに関わらず、すべての子どもが共に育ち合う環境づくりを目指して、わたしたちにできることは何でしょうか。園での子どもたちの様子を覗いてみると、はじめは「じぶんとちょっとちがうな」と感じて、一緒に遊んでいるうちに、そんな違いは気にならなくなって、自分や友だちのありのままを受け入れていく姿が

みられます。「ちがいをおもしろがる」子どもたちの様子や、その姿を支える保育者の実践報告を通して、保育の中の“多様性”について、一緒に考えてみませんか？

▽特別支援教育 高校における特別な教育的ニーズのある生徒への対応（対面 A112 講義室・双方向配信）

2022 年の文科省の全国調査によれば、学習面や行動面に著しい困難がある高校生は、1 学年あたり複数名在籍しており、教師からの適切な理解と効果的な指導や支援を必要としています。教師一人一人が様々に工夫していますが、支援体制や研修のあり方など解決すべき課題は多岐にわたります。その分伸び代が大きく、これからの充実が期待されているとも言えます。この分科会では、大規模な調査や数値からは現れにくい、高校教師の考え方や工夫に目を向け、高校における特別支援教育の充実につながるヒントを見出すことを試みます。

高校関係者だけでなく、一足先に特別支援教育が普及し、高校に子どもたちを送り出している小・中学校、さらに生徒や家庭、学校を支えている行政や専門機関の関係者の皆様とも、高校における特別支援教育について、意見を交わし、考えたいと思います。

▽教員研修 学校現場の悩みや課題を解消する糸口を話し合おう（対面 A110 教職大学院講義室・双方向配信）

皆さんが日々奮闘されている授業実践や、多様な児童生徒・保護者への対応など、学校現場の悩みや課題解決等に関するご質問に回答させていただきます。

さらに、皆さんがお持ちの興味・関心に応じて、教育実践総合センター教員がミニ講義を行うことも可能です。たくさんの皆さんの参加をお待ちしています。

▽学校保健 子どもの健康問題どう解決するか？ ―保健管理と保健教育の融合― （双方向配信のみ）

子供たちの健康課題にいち早く気づき、その解決に向けて健康教育として関わりたいと考えていても、実際には思うように実践できていないと感じている養護教諭の方も多いのではないのでしょうか。授業としての時間が確保しにくいことや、一人職として多様な業務を担っていること、周囲の教員の理解を得る難しさなど、現場にはさまざまな制約があります。

本研修では、「養護教諭が行う教育的関わりは、保健管理と保健教育の融合にヒントがあるのではないか」「日常的に行っている保健管理を教育的な視点で見直すと、どのような可能性が広がるのか」といった問いを軸に、参加者の皆さんと一緒に考えていきます。特別な取り組みを増やすのではなく、日々の実践を見つめ直すことで生まれる保健教育の糸口を探ります。

▽国語 次期学習指導要領「論点整理」を受けて 国語科の課題 （対面のみ A2 I 3 講義室）

2025年9月に公表された次期学習指導要領「論点整理」には様々な論点が提示されていますが、現在の国語科に求められている課題は何か、あらためて検討したいと思います。とくにデジタル化や教育課程の「柔軟化」について、現職教員である先生方と問題を共有しながら対応を考えていくことを目標にします。

▽英語 児童・生徒が主体的に取り組む「遊び心」を取り入れた言語活動

(対面 A棟2階エデュスポ・一方向配信)

英語の授業において、生徒が熱中して取り組むような活動にはどんな秘密があるのでしょうか。埼玉大学教育学部の応用言語学演習（ゼミ）では、「ゲーミフィケーション」という、ゲーム以外の分野にゲームの仕組みや要素を取り入れ、ユーザーのモチベーション向上、エンゲージメント強化などを目指す手法を取り入れた言語活動を、学生と一緒に考えています。当日は、学生が考案した「練習をもっと楽しくする活動」や「コミュニケーションをもっと豊かにする活動」を実演します。オンライン参加のみなさんには、会場で参加者が活動を体験している様子をご視聴いただき、一緒に効果的な言語活動のあり方を検討できればと考えています。なお、体験後には、埼玉大学教育学部附属中学校の蓬澤守教諭と埼玉大学奥住桂准教授による対談形式の振り返りも予定しています。

▽算数・数学 『操作的活動』を生かす数学的活動：アナログ教材とデジタル

教材 (対面のみ A2 I 4 講義室)

数学的活動における『操作』に焦点を当て、アナログ教材を手で操作することによる数学的活動と、デジタル教材を操作することを通した数学的活動の2つを実際に行ってもらうワークショップを計画しました。具体的には、算数セットなどのアナログ教材、ICTを活用するデジタル教材を、発達段階に応じて活用する数学的活動を参加者に実際に体験していただきます。

▽理科 現場で活用頂きたい教材や指導の工夫 (対面のみ A3 2 4・3 2

5 講義室)

理科の各分野（物理、化学、生物、地学、理科教育）の教員や学生、長期研修教員、附属小中学校の教員が、研究成果を踏まえて学校現場で活用頂きたい理科教材や指導の工夫について、10以上のポスター発表と教材紹介のブースに分かれて、ワークショップ形式で随時ご紹介します。ご自身の関心の高いブースに自由に訪問し、発表を見るとともに発表者と質疑して頂くことで、内容への理解を深めて頂ければ幸いです。

○物理

- ・ポスター発表「ICT 機器を活用した『電気の利用』における理科指導」 上敷領 静香（越谷市立蒲生小教諭）、大向 隆三教授

○化学

- ・ポスター発表「理科教育へカラーシャボン玉の活用」 松岡 圭介准教授

○生物

- ① ポスター発表「openUC2(You see too) 3D プリント顕微鏡の紹介」 日比野 拓准教授
- ② ポスター発表「宝蔵寺沼ムジナモの遺伝的多様性の研究」 山崎 寛太、手塚 日向詩（日比野研・学部4年）

○地学

- ① ポスター発表「浅間山を例とした Field-Studio teaching 」 鈴木 一幸（岡本研・大学院2年）
- ② ポスター発表「スペイン、バルセロナ自治大学での教育についての学び」 中山 祐希（岡本研・学部4年）

○理科教育

- ① ポスター発表「教師の授業改善に関する研究 ―OPPA 論に注目して―」 北村 千咲
(中島研・大学院2年)
- ② ポスター発表「教師の『自己評価』能力に関する研究-OPPA に注目して-」 岸田 笙
(中島研・大学院1年)
- ③ ポスター発表「OPPA 論について」 鈴木 迅人(中島研・学部4年)、安西 樹(中島研・学部3年) ほか
- ④ ポスター発表「理科教育における「学習と指導と評価の一体化」に関する研究―授業のグランドデザインを活用した事例を中心として―」 松本 尚樹(中島研・長期研修教員・秩父市立荒川東小学校教諭)
- ⑤ ポスター発表・教材紹介「概念地図法を用いて理科学習と児童の生活や経験とのつながりを認識させる理科指導法の開発―小学校第3学年の学年末の振り返りを想定して―」 大久保 葵生(小倉研・学部4年)
- ⑥ ポスター発表・教材紹介「知っている知識を使える知識へと転移させる理科指導の工夫―中学校第3学年 「仕事の原理」を日常生活に適応する授業―」 橋本 直希(小倉研・学部4年)
- ⑦ ポスター発表・教材紹介「「遊び」に対する意欲を理科の学習意欲に転換する指導法の開発―問題発見・設定する力の育成と関連させて―」 廣川 雄大(小倉研・学部4年)
- ⑧ ポスター発表・教材紹介「中学生に理科に関わる諸課題の解決に関わる多様な職業を認識させるカードゲームを用いた授業の開発」 古谷 春樹(小倉研・学部4年)
- ⑨ ポスター発表・教材紹介「生成 AI を活用したロールプレイによる中学校理科授業―科学的情報を調査し、評価し、利用する能力の育成と関連させて―」 中村 天駿(小倉研・大学院1年)

⑩ ポスター発表「主体的・対話的で深い学びを通じて児童の創造的資質・能力を育む理科指導－理科における創造的社会問題解決を通じた児童の発想力・構想力・創造的自己効力感の育成－」 内野 皓輝（小倉研・長期研修教員・鴻巣市立吹上小学校教諭）

○教育学部附属小学校より

・ポスター発表・教材紹介「令和7年度理科授業実践発表（第4学年「とじこめた空気と水」他）」 門脇 玄明教諭

○教育学部附属中学校より

・ポスター発表・教材紹介「令和7年度実践発表及び教材紹介」 谷津 勇太教諭、伊藤 慶祐教諭、小岩井 爽教諭

▽社会 紛争解決・合意形成のための話し合いと社会科教育 （対面のみ A

210講義室）

小学校学習指導要領「社会」および中学校学習指導要領「社会」では、紛争解決や合意形成が強く求められています。これは、高等学校学習指導要領「公民」においても同様です。中学校学習指導要領「社会」では、「対立と合意」という社会的な見方・考え方を働かせて社会的事象について考察することとなっています。学習指導要領の記述を踏まえて、紛争解決や合意形成する力を育成するためには、法的な見方・考え方の習得（法教育）に加えて、話し合いの技能の活用（交渉教育）を小・中・高校生から系統的に行うことが重要です。

交渉の技能は、いま注目されている非認知能力の一つであり、今後の教育に大きな影響を与えるものになります。また従来、「技能」は、資料の収集・読み取り・解釈という学習技能を意味していました。しかし、エージェンシーが注目される今、「技能」を「社会

で実際に活用できる実践的技能」と捉え直すことも必要になってきます。「紛争解決」に関する教育は、こうした教育界の潮流を受けて、新学習指導要領で注目を集めることが予想されます。

本分科会では、社会科における紛争解決の理論を示すと同時に、具体的な実践を提示します。

▽音楽 あらためて学ぶ、音楽科授業におけるピアノ伴奏 ―児童・生徒の表現に寄り添い、引き出すために―（対面のみ コモ棟6階音楽第1講義室）

音楽科の授業において日々先生方が演奏されているであろうピアノ。伴奏のために、また歌唱教材の旋律を示すために、鑑賞教材の旋律を取り出して…と、ピアノ演奏は幅広く授業実践を支えています。だからこそ、ピアノを専門的に学ばれた先生も、そうでない先生も、授業のなかでもっとピアノを効果的に学習指導のなかで用いることができれば、ピアノでこんなことができれば、とお感じのことがあるのではないのでしょうか。

そこで本分科会では、音楽科教育専門の森 薫、ピアノ専門の東浦亜希子、附属小学校音楽科で日々実践に取り組む遠山里穂の3名により、音楽科の授業におけるピアノ伴奏やピアノ演奏に関して、改めて考え、学ぶプログラムを企画しました。教師の教授行為におけるピアノ演奏の位置づけ、授業実践におけるピアノの活用方法、伴奏の困りごと相談、公開形式での歌唱教材を用いた伴奏助言指導(遠山と東浦による)…様々な角度から、参加者の皆さんと、あらためて「授業におけるピアノ」に迫る時間となればと思います。

▽図画工作・美術 文化をまとう、世界のドレスコード ―鑑賞授業を通じて

知る私そしてあなた―（対面のみ 0棟プロジェクト室）

●研修内容

図画工作・美術の分科会では世界の民族衣装を実際に着用することによって様々な文化を身体的・視覚的に体験する鑑賞の授業を行います。それぞれの衣装が持つ「かたち」や「色」「質感」「デザイン性」などの造形的要素に注目しつつ、それらが内包する文化的背景を想像し、自身の感じ方と他者からの視点を交換するなど、個々の文化を比較する活動を通じて自己の視点を相対化し、異なる文化を理解する力を体験的に育むことを目的としています。

●当日の流れ

【展開1】体験と観察：「ポーズをとって写真を撮ろう！」

教室に5～6着の異なる民族衣装を用意し、4人1組のグループ毎に「まずは着てみて、ポーズをとってみよう」と促します。全員が複数の衣装を着用し、互いに写真に撮りあった後、撮影した写真や実物を見ながら衣装の造形的要素について話し合います。

【展開2】共有と対話：「視点を交換し、深める」

元のグループを解体して新しいグループを編成し、任意の一着について深く話し合う場を設けます。最終的にその衣装が持つ造形的要素から読み取れる文化的背景について協議し発表をしてもらいます。

【展開3】振り返り：「多彩な文化とわたし」

振り返りとして指導者から、それぞれの衣装が持つ造形要素や意味、文化的背景について解説を行い、多彩な文化の魅力を味わうとともに、異なる文化を理解する力と意義について参加者全員で話し合います。

▽体育・保健体育 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の現在地

(対面のみ 附属小学校体育館・会場案内図の確認をお願いします。大学構内での実施ではありませんのでご注意ください)

学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会での議論が加速しています。既に教科・テーマごとに設置されたWGでの議論が積み重ねられている状況です。こうした動向も気にかかるところです。一方で、現行学習指導要領の趣旨の深化、特に主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善はどこまで進んでいるでしょうか。授業の何が変わったのか、改めて振り返りその成果と課題を次期改訂の方向とすり合わせていくことが重要だと考えます。さて、今年度は以下の内容を企画しています。こうした内容をもとに日頃の授業実践について、意見交換ができればと考えています。

- 「みんなが参加できるゴール型球技の指導法：「側線のボール運び」の実践」

(実技提案)

埼玉大学 松本 真

- 「小学校高学年ゴール型ボール運動における攻守切り替え学習の実践的研究～ハー

フコートゲームからオールコートゲームへの円滑な接続に着目した授業づくり

～」(研究発表) 春日部市立江戸川小中学校 校長 鈴木 美江 先生

- 「埼玉県の体育・保健体育の授業の現状と課題」(行政報告)

埼玉県教育局県立学校部保健体育課 学校体育担当 兒玉 直也 指導主事

▽家庭 家庭科の衣生活の実習でどのような力が身に付くのか (対面 A4

26 講義室・双方向配信)

家庭科では、学習活動で身に付いた力を発揮して生活場面の課題に取り組むことを大切にしています。生活様式が変化していく中で、学習内容と生活場面を結びつける機会を充

実らせていくことが重要であると考えています。今回は、知識や技能に加えて学習を通して培った考え方や解決までの道筋の立て方などを「生活の中で生きて働く力」と捉え、衣生活に関わる実習の授業を行った附属小学校の授業実践をご紹介します。多くの先生方と現場での様子を共有し、家庭科の授業をよりよいものにする時間にしたいと思います。

▽技術・情報 新しい時代を拓く技術教育のあり方 ―教科「情報・技術」を いかに捉えるか（対面 A114講義室・双方向配信）

分科会「技術・情報」では、「新しい時代を拓く技術教育のあり方―教科『情報・技術』をいかに捉えるか―」をテーマに、次期学習指導要領を見据えた技術教育の改革動向と今後の方向性について検討します。情報化・デジタル化が急速に進展する中で、技術教育に何が求められているのか、教科の枠組みや学びの本質をどのように再構築すべきかを、教育課程部会情報・技術ワーキンググループでも活躍される信州大学村松浩幸先生による講演を手がかりに議論を深めます。学校現場の実践や課題とも接続しながら、これからの技術・情報教育の可能性を参加者とともに考える分科会です。

▽生活 生活科の単元の新しいアイデアを出し合おう（対面 A211講 義室・双方向配信）

気候変動や感染症対応など予想しないさまざまな事態の中で、これまで通りの生活科の単元計画の実施が困難な状況が増えてきたように思います。猛暑で屋外での活動が十分にできない、どんぐりをあつめておもちゃ作りを構想しても十分集められないなど、活動中心の生活科実践特有の悩みは尽きないです。今年の分科会では、そんな悩みを解決するよ

うなアイデアを参加者の皆さんと出し合って、この際、これまでにない新しい生活科の
単元や活動を構想していきたいと思います。うちの学校ではこんな工夫をしました、
こんなアイデアがありますが実際にどう進めたらいいでしょうかなど、来年の単元計画
に生かせるような協働探究をする時間にしたいと思います。

＊温故知新ということで、会場で埼玉大学に所蔵している古い生活科教科書展示も行います。

企画	若林広泰（埼玉大学教職大学院生・戸田市立芦原小学校）
司会・趣旨説明	宇佐見香代（埼玉大学教育学部心理・教育実践学講座）
登壇者	横田典久（埼玉大学教育学部附属小学校） 鈴木康平（埼玉大学教育学部附属小学校） 若林広泰（埼玉大学教職大学院生・戸田市立芦原小学校）

▽総合（STEAM） 日本型 STEAM 教育の再確認と AI 時代の総合学習 （対面

A2 | 2 講義室・双方向配信）

最近、あまり STEM/STEAM 教育という言葉が聞かなくなったように思いますがいかがでしょう。では、総合的な学習の時間は話題に上っているでしょうか。探求活動が注目されている今、日本が世界に誇れる「総合的な学習（探求）の時間」や新しくできた「理数探求」ですが、どんなテーマを選ぶのか、どんな活動をするのか、その内容や方法について実践の現場での悩みはむしろ広がっているのではないのでしょうか。その一因が AI 技術の進展でしょう。何か調べるにも「AI に聞けばいい」と調べ学習の考え方自体を転換しなければならない状況ではないのでしょうか。

そこで、今回の分科会では、あらためて、分科会オーガナイザーの野村から総合的な学習（探求）の時間が、日本型 STEAM 教育であることを再確認する提案をさせていただくとともに、今年一緒に実践，研究を行った先生方や学生さんを登壇者に迎えて AI 時代にわたしたち人間の学びはどうある必要があるのか，教育哲学的な問いをさまざまな理論や実践を共有することを通して一緒に深めていきたいと思います。